

2023 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 橋戸 耕哉

〈 研修概要 〉

2024 年 2 月 25 日から 3 月 7 日までの 12 日間、ベトナム研修に参加しました。本研修ではチョーライ病院とタンアン一般病院における病院実習、フエ医科薬科大学との国際交流プログラムを行いました。

〈 研修参加の目的 〉

ベトナム研修への参加理由は 3 つあります。1 つ目は「自身の性格を改めること」です。私は優柔不断で心配性なため、不慣れな環境で数ある選択肢から自身の行動を即座に決定して行動できるか不安がありました。本研修の参加によって自身の弱点を克服し、今後の人生の分岐点で勇気ある選択ができるようになりたいと思いました。2 つ目は「ベトナムの医療を知れること」です。私は 2 年時に臨床実習を経験し、日本では放射線画像検査に必要な装置や設備が病院では整っていることを実感しました。人口に対する CT 及び MRI 装置数が経済協力開発機構(OECD)加盟国で日本が 1 位であることから見てとれます。日本が経済的援助をするベトナムの医療現場に興味を持ちました。本研修にて臨床的な経験や知識に加え、日本との医療の違いを学び、将来の診療放射線技師業務に活かせると思いました。最後は「国際交流によるコミュニケーション能力の向上」です。世界共通言語である英語の能力を高め、将来の選択肢を広げたいと思いました。以上の理由から、人間的に大きく成長できると思い本研修に参加しました。

〈 研修で学んだこと 〉

・想いを伝えること

私は 3 度の国際交流を経験しましたが、自分の英語力に自信がありません。そのため、これまでの交流では、Google 翻訳に頼りきりで自分の言葉で伝える積極性が欠けていました。ベトナム研修出発前に開かれた壮行会で玉木学長含め多くの先生方が共通して「英語は度胸」と仰っておられました。この言葉を聞き、英語が喋れないことではなく、英語力に自信がないことが問題であると気づきました。そこから私は、「英語が話せないことは決して恥ずかしくはない」と自分を奮い



▲フエ医科薬科大学での集合写真



▲ディスカッションでの発表の様子

立たせ、ベトナムの方に話かけました。思い浮かんだ英単語を並べただけの会話でしたが、ジェスチャーや表情を駆使すれば現地の方は伝えたい内容を汲み取ってくださり、会話が成立しました。さらに、タンアン一般病院での質疑応答やフエ医科薬科大学の学生とのディスカッションでは、多くの聴衆の面前で質問・発表をする機会もあり、私に注目が集まる中でも、病院見学後に感じた疑問やディスカッションテーマに対する回答を発表することができました。文法は支離滅裂で伝わりにくい内容でしたが、発表後は大きな拍手をもらい、想いを伝えられたことを実感しました。本研修を通じて、英会話は伝えようとする意思と英語力に自信を持つことが大切であると学びました。

・自ら学ぶこと

上述のように、英会話では伝えたい思いと英語力に自信を持つことが大切であると学ぶことが出来ました。しかし、知っている単語が少なければ会話できないため、研修への参加が決定してから、気になった日本語に対応する英単語を調べる習慣付けと友人の会話に耳を傾けるようにしました。その結果、自身の知らない文法や英単語を取り入れることができ、会話をする度に語彙量が増え、会話を長く続けられるようになりました。自ら学び取り入れる習慣は、診療放射線技師として臨床で働き出してからも継続しなければいけません。日進月歩で更新されてゆく医療の知識に追いつくために、日々の診療放射線技師業務をこなすだけでなく、学会や勉強会に参加し、得た知識を深化することが大切だと思います。また、広範な対象への学びが習慣化すれば、専門知識だけではなく、人間力も伸ばせることを学びました。

・自分を守ること

チョーライ病院の研修ではファントムを使用して静脈注射を練習する機会がありました。注射部位や器材の清潔保持は、感染症の防止に重要であること、患者からの血液暴露によって完治困難な後天性免疫不全症候群(AIDS)等に感染する恐れがあることを改めて認識しました。様々なスキルを取得し患者のために役立つ医療従事者になりたいとの思いが先行し、常に自身にリスクが伴う医療行為が多く存在することに意識が向いていませんでした。4月から受講する告示研修では、正しい知識と技術を身につけ、自分自身と患者の命を守れるように勉学に励みたいと思いました。

・好奇心を持つこと

フエ医科薬科大学附属病院で一般撮影検査とMRI検査を見学しました。一般撮影検査においては、見学だけではなくポジショニングと画像処理など、一連の診療放射線技師業務を体験できました。見学時に日本とベトナムの病院の違いについてフエ医科薬科大学の学生と話しました。私が日本の病院について話す時、先方の学生は学びたい、知りたい、という好奇心に満ちた目をしていました。彼らは自分たちの「今」に慢心せず、日本の医療についての知識を積極的に取り入れていました。彼らのように好奇心を持ち、講義内容だけで満足せず、貪欲に勉強に励みたいです。



▲交流会後の集合写真



▲臨床実習 1



▲臨床実習 2

〈まとめ〉

ベトナム研修を経て、分かりやすい簡単な英単語や端的な表現を選ぶ思いやりと共に英語でのコミュニケーション能力を高められたと感じています。誰かを思いやる気持ちを、患者接遇や画像処理など診療放射線技師業務にも活かしたいです。ベトナムの方々の寛容さと情熱、そして愛情など、現地にて人々と触れ合わなければ、感じとれないことばかりであり、本研修に参加できた幸せを噛み締めています。本研修で得た貴重な経験を活かし、一層の自己研鑽に励む所存です。



▲ベトナムの伝統着 アオダイ



▲フットサルでの集合写真

〈謝辞〉

引率して頂いた松尾先生、水田先生、霜村先生、石田先生、および飛行機の手配や名刺作成に携わって下さった本学職員の方々、病院研修を受け入れて下さったチョーライ病院、タンアン一般病院、フエ医科薬科大学の皆様には深く感謝致します。また、本研修に快く送り出してくれた家族にも心から感謝致します。